

家族で楽しめる Maker ムーブメントのお祭りが今年もやってくる！

## 「Maker Faire Tokyo 2013」出展者・協賛企業募集開始 日本科学未来館・タイム 24 ビルに会場を拡張して開催決定！

コンピューター技術者向けの専門書などを発行する出版社の株式会社オライリー・ジャパン（本社：東京都新宿区／代表取締役：John Moore）は、「Maker Faire Tokyo 2013」を、2013年11月3日（日）、4日（月・祝）の2日間、お台場の日本科学未来館とタイム 24 ビルにて開催することを発表し、出展者、協賛企業の募集を8月1日（木）から開始いたしました。

オライリー・ジャパンは、雑誌「Make」日本語版の読者を中心に、2008年からエレクトロニクス（電子工作）、DIY、サイエンス、ロボット、アートなど異なるジャンルの「Maker」（作り手）たちの発表の場、交流の場である「Make: Tokyo Meeting」（MTM）を開催してまいりました。そして昨年より、イベントの規模拡大に伴い、会場を東京・お台場にある「日本科学未来館」に移し、「Maker Faire Tokyo」としてリニューアルを行いました。2012年12月に行われた「Maker Faire Tokyo 2012」は、240組の出展者、9,100名の来場者を迎え、盛況のうちに終了、その後のMakerムーブメントの高まりや、来場者・出展者の皆様からの会場拡大のご要望にお応えし、「Maker Faire Tokyo 2013」は、会場を日本科学未来館とタイム 24 ビルの2か所に拡張し開催することが決定いたしました。出展者数も約300組を予定しています。

3Dプリンター、レーザーカッターなどを活用したパーソナルファブ리케이션の普及や、自らの製作した作品の情報（動画、製作方法、回路図、ソフトウェアなど）をソーシャルメディアなどを通じて公開することが一般的になるにつれ、個人の製作する作品が、以前よりも複雑かつ高性能なものになっており、イノベーションの誕生が期待されています。

本イベントには、テクノロジーを自由な発想で使いこなす「Maker」とその作品が多数集合。国内外の最新技術に触れられる貴重な機会を提供するとともに、モノを作ることの未来を提示します。

### ■実施概要

- ・ 名 称 : Maker Faire Tokyo 2013 (略称 : MFT2013)
- ・ 日 時 : 2013年11月3日(日) 12:00~17:00、4日(月・祝) 10:00~17:00 (予定)
- ・ 会 場 : 日本科学未来館 (<http://www.miraikan.jst.go.jp/>) 東京都江東区青海 2-3-6  
タイム 24 ビル (<http://www.tokyo-bigsight.co.jp/time/>) 東京都江東区青海 2-4-32
- ・ 入場料 : 前売 : 大人 1,000 円、18 歳以下 500 円  
当日 : 大人 1,500 円、18 歳以下 700 円 (チケットはプレイガイドにて9月中旬から発売開始予定)
- ・ 出展者数 : 300 組 (予定)
- ・ 主 催 : 株式会社オライリー・ジャパン
- ・ 共 催 : 日本科学未来館、東京港埠頭株式会社他
- ・ URL : <http://makezine.jp/event/mft2013> (出展者、協賛募集情報を含む最新情報を随時ご案内する予定です)

■お問い合わせ先 株式会社オライリー・ジャパン 担当：鹿野 (pr@makejapan.org)  
〒160-0002 東京都新宿区坂町 26-27 インテリジェントプラザビル 1F  
TEL: 03-3356-5227 FAX: 03-3356-5261

## ■ Make Tokyo Meeting (MTM) /Maker Faire Tokyo (MFT) 来場者推移

MTM 01	(2008年 4月)	30組 (出展者)	/ 600名 (入場者)
MTM 02	(2008年 11月)	60組 (出展者)	/ 1,200名 (入場者)
MTM 03	(2009年 5月)	90組 (出展者)	/ 2,400名 (入場者)
MTM 04	(2009年 11月)	140組 (出展者)	/ 4,000名 (入場者)
MTM 05	(2010年 5月)	200組 (出展者)	/ 7,200名 (入場者)
MTM 06	(2010年 11月)	210組 (出展者)	/ 8,000名 (入場者)
MTM 07	(2011年 11月)	260組 (出展者)	/12,000名 (入場者)
MFT2013	(2012年 12月)	240組 (出展者)	/ 9,100名 (入場者)

2010年9月には岐阜県大垣市で初の東京以外でのイベント Make: Ogaki Meeting を開催。同イベントは2012年8月にも開催され、出展者142組、2日間で来場者数5,000名を数え、大好評を得ました。2013年8月10日(土)、11日(日)には、山口県山口市の山口情報芸術センター[YCAM]にて Yamaguchi Mini Maker Faire の開催も決定しています。

## ■これまでのメディア掲載実績

The Japan Times (2012.12.5号)「Japanese innovation was alive and well at Maker Faire」/日経 MJ (流通新聞) (2013.1.1号)「イベント活況 個人と企業つなぐ」/Switch (2013年2月号)「テクノロジー+カルチャー ネ申ラボ100」/R25 (2012.12.6号)「ヒットの舞台裏 メイカムーブメント」/@IT「Maker 達のお祭りがやってきた! Maker Faire Tokyo 2012」/PC Watch「巨大人型4脚ロボットからジョーク系まで展示されたものづくりの祭典」/NHKオンライン/週刊ダイヤモンド/ダイヤモンドオンライン/TOKYO MX TV/東京 IT 新聞/デイリーポータルZ/週刊プレイボーイ/「広告」、他多数

## ■取材につきまして

### ・事前取材のアレンジにつきまして

Maker ムーブメントを支える人々、オライリー・ジャパン関係者の取材をアレンジ致します。

(注目の出展者情報、イベント詳細につきましては、9月中旬ごろに再度プレスリリースにてご案内申し上げます)

[pr@makejapan.org](mailto:pr@makejapan.org) までお気軽にご連絡ください。

### ・当日の取材につきまして

Maker Faire Tokyo2013 の当日取材の受付は、9月中旬より開始致します。

詳細は9月中旬発行のプレスリリースをお待ちください。

プレスリリースを含む報道関係の皆様への情報は <http://makezine.jp/event/mft2013/press/> にて公開の予定です。



## 参考資料① Maker ムーブメントとは？

# Make:

makezine.jp

「Make: technology on your time」は2005年2月、米国の出版社 O'Reilly Media より、雑誌と Web サイトという形でスタートしました。

自宅の庭や地下室やガレージで、びっくりするようなものを作っている才能あふれる人たちのコミュニティが、現在どんどん大きくなっています。「Make」は、そうしたコミュニティ同士を結びつけ、刺激と情報と娯楽を与えることを目的としています。

「Make」は、すべての人が思いのままに、あらゆるテクノロジーを遊び、いじくり、改造する権利を称賛します。「Make」の読者は、自分自身、環境、教育—私たちの世界全体をよりよいものにするための文化、コミュニティとして成長を続けています。

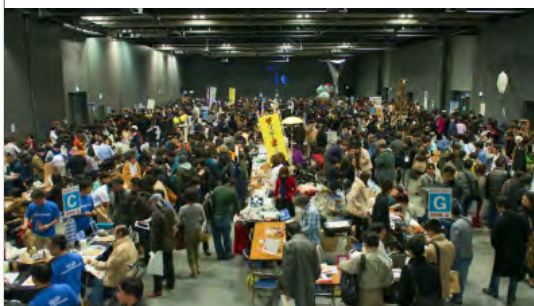
雑誌と Web サイトの双方で、さまざまな作品やその作り手 (Maker)、読者自身が実際に作って楽しむことのできるプロジェクトを紹介していったところ、その記事を通じて、それまで個別に制作活動を行っていた Maker 同士のつながりが生まれ始めました。そのつながりはすぐに Maker 同士、Maker と読者が交流するイベントとして結実し、より大きなものになっていきます。「Maker Faire」の誕生です。

「Maker Faire」の成功により、「Make」は単なる雑誌ではなく、「Make」本誌 = ペーパーメディア、Makezine.com (ブログ) = Web メディア、Maker Faire (イベント) = ソーシャルメディアの 3 つが織りなす一種のムーブメントとなりました。その活動は海を渡り、日本やイギリスでもイベントを行うまでに大きくなっています。

**現在 Maker Faire は世界約 60 か所で開催され、2013 年 5 月に San Francisco で開催された Maker Faire Bayarea 2013 には 2 日間で約 12 万人が来場しました。また、2012 年 12 月に日本で開催された「Maker Faire Tokyo 2013」には 240 組が出展、9100 名が来場しています。**

日本でも、新しい「手作り」の形として、Maker ムーブメントが注目を集めています。「Make」はそんな人たちを広く紹介し、さまざまなモノづくりの知識や経験を共有し、交流する場を生み出しています。「Maker Faire」は、実際に Maker たちが試行錯誤して作り上げたモノや卓抜な技術を発表する場所であり、人 (Maker) と人 (来場者やあらたな Maker) が会おう刺激的な場所になっています。

2013 年 1 月には、O'Reilly Media から、Make Division が独立分社化を果たし、Maker Media 社が設立されました。Maker ムーブメントとそれを支えるメディアは新たな局面を迎えようとしています。(日本では、株式会社オライリー・ジャパンが Maker Media 社の International Partner として、雑誌(「Make」日本語版)、イベント(Maker Faire)、ウェブサイト (makezine.jp) を発行・運営を通じ、日本の Maker を支援する活動を引き続き展開していきます。)



## 参考資料② Maker Faire Tokyo 2012 出展者のご紹介（一部）



### VagabondWorks

24 脚の電動脚式スケートボード。Android 端末から Bluetooth リモコンでスロットル制御、操舵はスケボーと同じように体重移動で行います。



### RADIATION-WATCH

安価で高性能なスマート放射線センサー「ポケットガイガー」を開発・配布するプロジェクト。研究開発は、ボランティアによって支えられています。



### ヒゲキタ

直径 5.6m のドームと恒星数 5800 個のピンホール式プラネタリウム投映機。赤青メガネを使った 3D 映像投映機で、星空と 3D 映像を鑑賞します。



### クラタス（水道橋重工）

2 年半の期間を費やして作り上げた巨大ロボット。全高 4m、重量 4t、油圧駆動の関節が約 30 ヶ所、人が搭乗可能、自走可能で物も掴めます。

## 参考資料③ Maker ムーブメントを知るためのキーワード

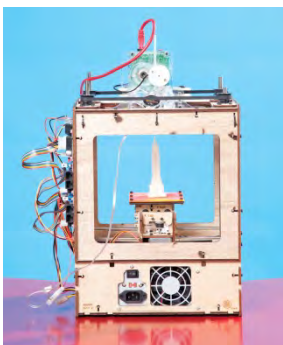


### パーソナルアプリケーション

個人が自分の必要としているもの、作りたいものをデザインし、3D プリンタやレーザーカッターなどの工作機械を活用して「製造」すること。必要な機材を使用できる「FabLab」も 2011 年ごろから日本に登場しはじめた。

### 3D プリンタ

通常の紙に平面的に印刷するプリンタに対して、立体（3 次元のオブジェクト）を造形する立体プリンタを指す。コンピュータ上で作った 3D データを元に、樹脂を高温で溶かし積層させて立体形状を作成する。近年では 10 万円以下のモデルも登場しており、個人での導入が進みつつある。模型製作、家電の部品製作、DIY パーツの製作ほか、応用範囲は広い。



### Arduino

イタリア生まれのオープンソースのツールキット。「アルドウィーノ」と読む。比較的安価なハードウェア（マイコンボード）と使いやすい開発環境で、アクセサリ、電子楽器からロボットまで様々な物を作ることができる



### オープンソース・ハードウェア

回路図、動作に必要なソフトウェア、部品表などを再利用可能なライセンスで公開しているハードウェア。Arduino がその代表的な例。他にポータブルゲーム機、3D プリンタなどがある。

### Raspberry Pi

ラズベリーパイ財団によって英国で開発された軽量小型のコンピュータ。学校で基本的なコンピュータ科学の教育を促進することを意図して開発され、1 台 25 ドルからという低価格も相まって、2012 年 2 月の発売開始時には、世界中から注文が殺到した。

## 参考資料④ Maker Faire Tokyo 2012の様子

(Photo by : ただ (ゆかい))



水道橋重工の「クラタス」。全高 4m、重量 4t、人間が搭乗可能なロボットです



小型ガイガーカウンターの展示即売



子供が楽しめる展示も。家族連れの方にもたくさんご来場いただきました



実際に自分の手を動かして体験できるワークショップも多数実施



クラフト (手芸) ゾーンも人気コーナーの一つ。写真はPCの基板を刺繍した作品



DIY MUSIC と題したステージでは、自作楽器によるライブを開催



プレゼンテーションでは活発な意見の交換が行われました